

平成27年度特集展示(会期：平成27年5月19日(火)～7月12日(日))



モダン福岡を眺める

— 没後60年 吉田初三郎の鳥瞰図 —

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

1 吉田初三郎とは

大正から昭和初期、街中を「モダンボーイ」「モダンガール」と呼ばれた人々が闊歩し、「モダン」という言葉が一世を風靡していた時代に、日本の内外各地で多くの鳥瞰図を描いた人物がいました。「大正の広重」とも称される、吉田初三郎(1884～1955)です。

吉田初三郎は京都に生れ、友禅染の職人などを経て洋画家の鹿子木孟郎に弟子入りますが、大正元年(1912)頃から師の勧めで商業美術の道に進みます。そして大正3年、前年に京都と大阪を結ぶ京阪電鉄の案内として描いた鳥瞰図が皇太子(後の昭和天皇)に賞賛されたことに感激し、以後様々な依頼主の注文に応じて多くの鳥瞰図を製作しました。その数は数千種類に及ぶとされ、さらに印刷によって大量に世に送り出されたため、この時代の日本の様々な地域の姿を、多くの人々に伝えました。

本展では、九州歴史資料館が所蔵する吉田初三郎の鳥瞰図を通して、「モダン」と呼ばれた時代の福岡県内外の姿を見ていきます。

2 初三郎式鳥瞰図の特徴

「初三郎式鳥瞰図」とも呼ばれる吉田初三郎の鳥瞰図では、まず中心に依頼主がいる都市や観光地、また交通機関など主題の街や施設が置かれます。そして現地に赴いて徹底した調査やスケッチに努め、その成果を詳細に描写しました。そのため彼の作品は美しい絵であると同時に、その時代の姿を現代に伝える貴重な資料とも言えます。

一方で周縁部は、地形や距離感が大きくデフォルメされ、東京や富士山など本来は見えない地も描かれています。これによって、主題の地が様々な場所につながっているように見えます。このように中心部の詳細な描写と、周縁部の大胆なデフォルメとの共存が、初三郎の鳥瞰図の特徴といえます。



昭和11年発行の「福岡市鳥瞰図」の拡大画像
詳細な市中心部(左)と富士山も見える周縁部(右)



福岡市鳥瞰図(昭和11年)

展示資料一覧

作者名	資料名	年代	寸法 (タテ×ヨコ)	作者名	資料名	年代	寸法 (タテ×ヨコ)
1 吉田初三郎	福岡市並近郊名所交通図絵	昭和2年	17cm×77cm	11 吉田初三郎	九州郵船航路景勝交通鳥瞰図	昭和11年	17cm×76cm
2 吉田初三郎	福岡市鳥瞰図	昭和11年	18cm×76cm	12 吉田初三郎	日本鳥瞰九州大図絵(拡大複製)	—	—
3 吉田初三郎	炭都飯塚市鳥瞰図	昭和8年	19cm×99cm	13 大淵善吉	日本府県管内地図福岡県	昭和8年	39cm×54cm
4 吉田初三郎	大牟田市鳥瞰図(絵葉書)	昭和初期	9cm×14cm	14 吉田初三郎	鎌倉江之島名所図絵	大正11年	18cm×99cm
5 吉田初三郎	小倉市交通名所図絵	昭和6年	17cm×75cm	15 吉田初三郎	京都名勝交通遊覧鳥瞰図	昭和12年	17cm×77cm
6 吉田初三郎	八幡市鳥瞰図	昭和9年	18cm×100cm	16 吉田初三郎	平壤を中心とする平安南道鳥瞰図	昭和初期	17cm×74cm
7 福岡県	福岡県管内図	昭和15年	66cm×54cm	吉田初三郎	大牟田市に開け行き港(絵葉書)	昭和初期	9cm×14cm
8 吉田初三郎	北九州鉄道沿線名所遊覧図絵	昭和5年	19cm×99cm	吉田初三郎	大牟田大工場街(絵葉書)	昭和初期	9cm×14cm
9 前田虹映	福岡・久留米・大牟田 三都観光図絵	昭和14年	19cm×83cm	17 吉田初三郎	御絵はがき(絵葉書入れ)	昭和初期	18cm×10cm
10 金子常光	九州鉄道沿線案内	大正13年	18cm×98cm	吉田初三郎	元寇(絵葉書)	昭和初期	9cm×14cm
				吉田初三郎	博多小女郎(絵葉書)	昭和初期	9cm×14cm

※すべて九州歴史資料館所蔵

3 吉田初三郎が描いた福岡県内外

それでは、吉田初三郎が描いた鳥瞰図について、3つのテーマから見ていきましょう。

I 都市を描く

初三郎に鳥瞰図の製作を注文した依頼主によく見られるのは、自治体や商工会議所など都市の関係者です。当時、日本では多くの都市が発展を遂げていましたが、中でも福岡県は都市の発展が特に著しく、昭和初期には市が日本一多い県でした。都市の鳥瞰図では中央に市街地が描かれ、その中でもランドマークになる施設が強調されています。

たとえば昭和11年(1936)製作の「福岡市鳥瞰図」は、福岡市が九州最大の都市に成長していた頃のもので、中心部には広大な市街地が広がり、その中でも官庁や学校などの洋式建築が強調されています。またこの年は博多港の第一期築港工事が竣工した年でもあり、港には白く直線的な岸壁が見えます。

また昭和6年の「小倉市交通名所図絵」では、海沿いには埋め立てられた工業用地が、小倉城一带には陸軍部隊の司令部や兵器工場が描かれており、商工業と軍隊の街として歩んだ戦前の小倉の様子が見えてきます。一方で市内を流れる紫川の上流には滝や桜で彩られた貯水池が描かれるなど、豊かな自然の姿も強調されています。



小倉市交通名所図絵(昭和6年)



九州郵船航路景勝交通鳥瞰図(昭和11年)

II 路を描く

都市と共に初三郎が鳥瞰図の主題にしたのは、鉄道や航路など交通路でした。福岡県では明治から濃密な鉄道網が展開され、港からは多くの航路が開かれていました。交通が主題の鳥瞰図では、鉄道や航路が目立つ線で描かれ、主題の交通機関がどこを結んでいたのかが一目でわかるよう表現されています。

たとえば博多港からの航路案内として製作された昭和11年の「九州郵船航路景勝交通鳥瞰図」を見ると、朝鮮半島の釜山港に向かう航路が一直線に描かれているのをはじめ、長崎や壱岐、対馬、そして遠く遼東半島の大連に至る航路も描かれ、博多港が海外への窓口にもなっていた姿を表しています。また鉄道を主題とした鳥瞰図では、路線を直線で左右に描き、その上下に観光名所を強調して描いています。

III 国内外の名所を描く

様々な依頼主の注文に応え、多くの鳥瞰図を世に送り出した初三郎。その作品の舞台は、日本内外のさまざまな場所に及んでいました。その中には京都など日本有数の観光地もあり、さらには朝鮮半島など、当時「外地」と呼ばれていた海外も含まれています。

このように、国内外の様々な場所を記録に残したことも、初三郎の鳥瞰図の大きな意義と言えます。

(学芸調査室 渡部邦昭)



編集 発行: 平成27年5月19日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>